

「山滴る(したたる)」

校長 村上俊一

これは俳句の夏の季語です。旧永野小学校の校歌に、「したたる山のしずくをば、合わせ集めて流れゆく、はなづら川のたえまなき、つとめぞ人の宝なる」という歌詞があります。「したたる」とは「水などがしずくになってたれ落ちる」という意味の他に、「美しさや鮮やかさがあふれるばかりに満ちている」という意味もあります。神石の山は、まさに木々の緑が濃く鮮やかにあふれるばかりに満ちる夏を迎えました。

子どもたちは運動会を通して学んだ、力を合わせ全力で挑戦する姿を、学習の場で発揮しています。六年生のリーダーとしての姿も、朝会の司会や委員会の活動、あいさつをする姿や通学区別の登下校などでの動きの中に「できるようになってきた」という自信が見られるようになりました。その動きや姿は確実に下級生達へのお手本となっています。

「リーダーになる」という神石小学校の目標は、一人一人の子どもたちが、自分の持っているよさを精いっぱい発揮して、きらきらと輝いていくことです。自信やエネルギーがあふれるばかりに満ちた、まさに「したたる」神石小学校の子どもであってほしいと願っています。